

NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 出張相談概要

- ・団体名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
- ・出張者：フェアトレード部 大石雅美
- ・企画名：コーヒーでできる国際協力「東ティモールでのフェアトレード」
【形態：相談対応サービス・講演（○）・セミナー・その他（ ）】
- ・実施日時：2013年7月4日（木）10：00-12：00
- ・場所：奈良県中小企業会館 / 小会議室
〒630-8213 奈良県奈良市登大路町38-1
- ・実施内容：コーヒーを飲むことでできる国際協力の形を東ティモールの事例で説明する
依頼元／主催等団体名：奈良自然派コープ
- ・集客人数：20人



2. 実施内容

- （1）様々な支援の携形態
- （2）そもそもフェアトレードとは
- （3）東ティモールの歴史と支援の歩み
- （4）国が抱える課題・問題
- （5）今後に向けて
- （6）質疑応答

という内容で講演を行った。

（1）様々な支援の携形態

支援には紛争や自然災害に対応するための緊急支援とその後続く復興開発支援があり、紛争や自然災害支援の今「どの部分なのか」によって行う支援活動が違ふ事を、ピースウィンズ・ジャパンの支援活動を例に説明。

（2）そもそもフェアトレードとは

ILOが取り決めたフェアトレードの条件の12項目のきまりと、それぞれの実例をあげながら説明。

（3）東ティモールの歴史と支援の歩み

16世紀のポルトガル支配から1970年代のインドネシアの強制併合、1999年の住民投票後の事件を経て2002年に独立した東ティモールの歴史を説明し、どの時点だからどの支援がいるのかということを時系列的に挙げ、なぜフェアトレードを通じたコーヒー生産者支援を始めたかを説明した。

（4）国が抱える課題・問題

東ティモールの国、またコーヒー生産者が抱える問題や課題を紹介した。

（5）今後について

石油の枯渇が予想される東ティモールにとって、唯一の輸出産品であるコーヒーが今後果たす役割などを説明した。

（6）質疑応答

講演終了後参加者から質疑応答を受けた。

3. 所感及び効果等



受けた質問と感想

(別添、アンケートはNGO相談員フィードバックシート参照)

- ・インドネシアに強制併合されていた時代と独立後の変化はあったか。
- ・インドネシア時代と東ティモール独立後の変化は
- ・東ティモールの人の生活はどんなものか
- ・コーヒーを飲むことで本当に支援につながるのか
- ・フェアトレードのものはどれも高いが、安くすることは可能か
- ・東ティモールという遠い国が近く感じられた
- ・フェアトレードという言葉は聞いたことがあったが、意味がようやく分かった
- ・遠い国で起こっている事を子どもたちに伝えたい など

講演者の感想

非常に関心をもって聞いていただいた。全く知らなかった東ティモールという国が身近に感じたという意見と、子どもにも教えたいというご意見が多かった。また、フェアトレードは金銭を寄付するのとは違い、日々の食を通じた国際支援の在り方としてハードルも低く取り組みやすいという意見もあった。

直接活動をしている人から話を聞くのはとても参考になると言っていたので、今後も機会があれば積極的に出張サービスを行いたい。

2013 年 7 月 9 日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 国際 NGO によるアフリカでの支援活動及び国際協力でのキャリアパスについて

開催日時：平成 25 年 7 月 2 日（火） 13 時 5 分～ 14 時 35 分

7 月 3 日（水） 10 時 45 分～12 時 15 分

13 時 5 分～14 時 35 分

主催者： 広島修道大学法学部国際政治学科

場 所： 広島修道大学（広島県広島市安佐南区大塚東一丁目 1 番 1 号）

出張者： （正・副・その他）特定非営利活動法人 難民を助ける会 堀越芳乃

参加者： 2 日 国際機構論約 I 130 人

3 日 国際関係演習 B I 10 人、国際開発論 70 人

実施内容：

受講した学生は普段の授業で国連、PKO、アフリカ、紛争、開発等を学習していることを受け、まずスーダンで PKO ミッション UNMIS が展開していた当時の地雷対策活動の仕組みを紹介した。次いで、NGO の活動に関わるアクターを紹介し、NGO と国連機関、国連 PKO、政府機関などとの連携・調整の実務について紹介した。また、キャリアパスもテーマのひとつであるため、講師自身の大学・大学院での専攻や、学生時代に実施したインターシップ、途上国での勤務、現在携わっている業務等をお話した。

講演後には、「なぜ国際協力の分野で働こうと考えたのか」「紛争後の社会や災害後の現場で NGO としてできること、課題は何か」など、様々な質問が寄せられた。

所感：

関係機関との調整、業務分担や連携の実務についての関心が高かった。NGO 職員の業務についても関心が高く、関係機関との調整をはじめ、各国のスタッフとの協働、申請書や予算書の作成など、実際に行っている業務について具体的に紹介することで、理解を深めてもらうことができたように思う。



3日 国際関係演習 B I。右が出張者の堀越芳乃



3日 国際開発論

2013 年 7 月 18 日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 「中学生の私たちにできる国際協力」

開催日時：平成 25 年 7 月 10 日（水） 14 時 ～ 15 時 30 分

主催者： 柏崎市立鏡が沖中学校

場 所： 柏崎市立鏡が沖中学校体育館（新潟県柏崎市大字枇杷島 2842 番地 1）

出張者： （正・副・その他）特定非営利活動法人 難民を助ける会 松本夏季

参加者： 中学校 3 年生 118 名、教員 8 名

実施内容：

「中学生の私たちにできる国際協力」というテーマで、総合学習の授業内（5 限・6 限）に講義を行った。難民問題、地雷・不発弾問題を中心に、「自分が難民になったらどうするか」を考えるグループワークや、地雷に関するクイズを交えながら、途上国が抱える問題や国際協力における NGO の役割について考えた。AAR の支援活動についても写真を用いて説明し、NGO が世界規模の課題にどのように取り組んでいるのかを紹介した。

講演後には、「パスポートを持っていない難民の人たちは、外国でどうやって生活するのか」などの講演内容に関わる質問から、「今の仕事でやりがいを感じることは何か」「中学生のときは何に関心を持っていたか」などキャリアに関するものまで、様々な質問が寄せられた。

所感：

2 年次には沖縄での修学旅行で「平和とは何か」を考える学習の機会があり、平和や国際協力というトピックにもともと関心が高い生徒が多いようであった。90 分という中学生にはやや長い講演時間だったが、集中力を持って聞いてくれ、講演内の問いかけにも多くの生徒が積極的に挙手して答えてくれた。講演後に送っていただいたアンケートでは、『もしも自分が難民になったら』という問いで、深く考えさせられた」「食糧に困らず、空襲や襲撃にもおびえず生きていけることは本当に幸せなことだと知った」「自分たちもボランティアや募金活動などで活動に協力できることが分かった」などの回答が寄せられ、講演内容への理解度の高さをうかがうことができた。

写真別添：講演を行う報告者



質疑応答



平成 25 年 8 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
山上 正道

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として出張サービスを実施したので、内容をご報告いたします。

記

1. 企画名:ピース・アーチ・ひろしま
2. 形態:相談対応サービス
3. 出張者氏名:山上 正道
4. 依頼元/主催団体名等:ピース・アーチ・ひろしまプロジェクト運営事務局
(広島県環境県民局文化芸術課内)
5. 実施日時:平成 25 年 7 月 27 日(土)・28 日(日)11 時 - 20 時
6. 実施場所:広島県立総合体育館/サンクンガーデン/ハノーバー庭園・多
目的広場/NTTクレドホール(住所:広島県広島市中区基町)
7. 実施の内容:
広島県が中心となって展開している「ピース・アーチ・ひろしま」プロジェクトの一環として、メインコンサート会場(広島グリーンアリーナ)周辺において、平和貢献活動に取り組んでいる企業、各種団体、NPO・NGO などが出展する『ピース・フィールド』が展開された。本イベントにブースを出展し、来場者や参加団体からの国際協力、NGO 活動等に関する相談に応じた。
8. 所感・効果:
イベントには広島県内の団体が多く出展していたが、関東、関西で平和活動、国際協力活動を行っている団体もブース出展しており、フェアトレードコーナー、各国料理の販売コーナー、企業や行政ブースなども、約 60 社・団体の出展があった。相談員ブースでは、2 日間で合計 24 件の相談に対応した。相談の内容はボランティア・就職やフاندレイング、大学・企業との連携、各国事情などと多岐にわたっており、学生よりも社会人の相談が多かった。2 日目が終日雨だったこともあり、全体的に来場者が少なかったが、NGO の活動内容から、実例に基づいた具体的な情報を提供できたのではないかと思う。



NPO、NGO、企業、自治体ブースの入り口



各国料理を販売するワールドキッチン



ブース出展コーナー



左手前が相談員ブース



相談に訪れた来場者(27日)



相談に訪れた来場者(28日)

(特活) NGO 福岡ネットワーク：NGO 出張相談報告書（平成 25 年 7 月）

(ア) 団体名・出張サービス企画名・実施日時・場所

団体名：(特活) NGO 福岡ネットワーク

企画名：ユナイテッドピープル映画祭

実施日時：平成 25 年 7 月 7 日（日）10:00～19:00

場所：gate's 8F（映画祭特設会場）（福岡市博多区中洲 3-7-24）

(イ) 実施内容

本映画祭はユナイテッドピープル株式会社が主催したものである。映画が持つ「共感」の力で人と人をつなぎ、世界をよりよくするアクションと一緒に起こしていくことを実現するために開催されたイベントでは、3 日間の期間中、「再生可能エネルギー」「持続可能社会」「コミュニティ」「ローカリゼーション」「人類の未来」「食糧問題」「フェアトレード」といった社会的テーマを扱った映画の上映や世の中を変えようと行動を起こすキーパーソンによるトークショー、ワークショップ、地元福岡で活動する NPO によるブース出展が行われた。

当団体は、映画を見たりトークを聞いたりすることで国際問題や国際協力に興味関心を持ち、ブースを訪れた人からの疑問や質問に応じた。

(ウ) 集客人数

参加者数：およそ 700 人

所感及び効果等

ありがちな国際協力系のイベントとは異なり、性別も年齢も（おそらく）職業も価値観も様々な参加者と映画やトークを通してそれぞれの考えや感覚を共有したり議論したりしながら、これからの未来について考えてみるというユナイテッドピープル映画祭ならではの雰囲気の中での出張サービスとなった。

そのため、国際協力や NGO に関する一般的な問い合わせや相談への対応というものではなく、これからの社会に関するものや、世界や世界の課題と私たちとのつながりといったテーマでゆったりと話をする機会を得られた。

今回の映画祭／相談員との何気ない会話などを通して、日々の暮らしの中で世の中のことを考えたり、より良い世界を作ることができるのだという気づきを得るきっかけになれば、と感じた出張サービスであった。



NPO によるブース出展の様子



会場ではアートの作成も平行して行われた